

岩津ねぎだより

令和2年9月14日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

今年の岩津ねぎは、7月の降雨、8月の猛暑により、早く定植した所と遅く定植した所では生育に差が生じています。少し気温も落ち着いてきましたが、今後も大型の台風の発生も懸念されることから、気象情報に注意し、生育状況に応じた適正な管理に努めましょう。

1 排水対策は早期に実施

台風9号、10号の通過により、一部のほ場では、ねぎがやや傾いていますが、大きな被害はありません。今後も、局地的な豪雨や台風の発生が懸念されます。降雨後は、ほ場内が飽水状態となり、根腐れが発生します。ほ場を見回り、降雨後、ほ場内の水が一刻も早く排水できるように、必ず排水溝をチェックしましょう。



排水不良は、水が停滞し、長期間この状態が続くと根傷みを起こし、欠株や生育遅延の原因となります。



長時間、水に浸り根傷みを起こしている

◎大雨により冠水した際は、

Zボルドー(500倍)を散布し、細菌や汚れを洗い流してください。

2 ねぎの生育に合わせた中耕・培土を実践

【梅雨までに定植した所は、M字土寄せを】

早く植えて生育の良い所は、中耕培土が必要です。写真1のように襟首より下が伸びているほ場では、株元が埋まらないように注意しながら、襟首の下までM字土寄せを行ってください。



【7月下旬以降に定植した所は、中耕作業で酸素の補給を】

降雨のあとの乾燥で表土が硬く締まると、通気性が悪くなり、土壌の酸素不足で根の生長が悪くなります。根が酸素不足にならないように根鉢周辺の土壌をほぐしてください。

ほ場の状態を確認し、条間の中耕・除草作業を実施してください。根の周りの環境改善を意識して、根鉢の際まで耕します。ただし、襟首より上に培土すると生育ストップで逆効果になります。



3 追肥はあわてない！

生育が悪いと言って、早い追肥は厳禁です。気温が高く雨が無いときは、チッソ肥料を大量に施用すると、根焼けを起こすだけでなく、病害発生を誘発してしまいます。

追肥は生育を見ながら、2回目の土寄せ時から実施しましょう。

<施肥設計>

[10aあたり]

資材名		施用量	時期・施用方法
追肥	やさいめいじん	90kg	2回目土寄せ時
	磷硝安加里 S604 または PKセーブ	30kg	3回目土寄せ時
		30kg	4回目土寄せ時
		30kg	11月下旬～12月上旬（越年収穫）

4 病害虫の防除について

8月の猛暑の影響で、ネギアザミウマの発生が多く見られます。また、早い追肥、株元への土寄せにより、軟腐病の発生が見られます。今後は、台風の影響から、べと病や黒斑病の発生が懸念されます。下記の表を参考に、予防・初期防除に努めましょう。



ネギアザミウマ
による吸汁跡



軟腐病



黒斑病

★軟腐病

葉が黄化し、株元が腐り簡単に引き抜け、腐敗臭がします。気温が30～35℃で多湿の状況で発生しやすいため、局地的な降雨に注意しましょう。

◎発生株を見つけたら→被害株は抜き取り、ほ場の外へ持ち出す。

◎発生していない場合

・オリゼメート粒剤は「転ばぬ先の杖」。発生前に予防剤として使用してください。

★黒斑病

かびによる病害で、葉に紡錘形の斑点を生じ、病斑上にすす状のかびを生じ、黒褐色の同心円輪紋状となります。

発生は、気温が24～27℃で降雨が続くと発病します。

また、肥料切れ、根傷みにより発生が助長されます。

★白絹病

下葉が萎れ枯れている株が連なっており、掘ってみると、白くて比較的太い菌糸がはびこっている。

地際部に赤茶色の小さな菌核を密生する。

<発生株を見つけた場合>

被害のひどい株は抜き取り、ほ場の外に持ち出す。併せて早急に薬剤の灌注処理を行いましょう。



白絹病発生株

《防除薬剤例》

薬剤名	適用病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数
ダントツ粒剤	ネギアザミマ	3～6 kg/10a	収穫3日前 (株元散布)	3回以内
ランネート45DF	ネギアザミマ	1000-2000倍	収穫7日前	4回以内
ヨネポン水和剤	黒斑病、さび病、べと病、軟腐病	500倍	収穫7日前まで	4回以内
オリゼメート粒剤	軟腐病	6 kg/10a	株元散布 土寄せ時(収穫30日前まで)	2回以内
アミスター20フロアブル	黒斑病、さび病、べと病	2000倍	収穫3日前まで	4回以内
モンカットフロアブル40	白絹病	2000倍	株元散布(灌注) 土寄せ時(収穫30日前まで)	3回以内
モンカット粒剤	白絹病	4-6 kg/10a	株元散布 土寄せ時(収穫30日前まで)	
モンガリット粒剤	白絹病	4-6 kg/10a	株元散布 土寄せ時(収穫14日前まで)	3回以内

農薬散布の際には、展着剤「アプローチBI(2000倍)」または、「ワイドコート」(5000倍)を加用してください。

◎農薬は、使用基準を守って使用しましょう。

<問合せ先>

- ・和田山営農生活センター :672-4800
- ・朝来営農生活センター :670-4341
- ・山東営農生活センター :670-7744
- ・朝来農業改良普及センター:672-6886